

平成30年度 第2回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成30年12月19日（水） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：小川勝士、鎌田和弘、木村滋、服部雅彦、刀禰清貴、秋松等、
富田直和、長江隆一、酒井正俊、小笠原英毅、大野博子、吉田久子、
小出政彦、佐藤馨、竹浜俊一、東間和浩
町 長：岩村町長、吉田副町長、萬谷副町長、田中教育長、総務課長、
財務課長、地域振興課長、総合病院事務長、住民生活課長、
住民生活課国民健康保険係長、住民生活課国民健康保険係、
住民サービス課長、農林課長、農林課参事、総務課参事、
総務課庶務交通係長、企画振興課長、企画振興課参事、
企画振興課企画係長

傍聴者：なし

【要 旨】

- 地方創生総合戦略効果検証について説明し、質疑を受けた。
- 当面する町の主要施策・事業について説明し、質疑を受けた。
- 八雲町新庁舎等建設について説明し、質疑を受けた。

【内 容】

1. 開会

2. 町長挨拶

3. 会長挨拶

4. 議事

（1）地方創生総合戦略効果検証について

資料1、資料2について企画振興課企画係長より説明。

- ・資料1 質疑なし
- ・資料2 質疑

（委員）

・3ページの地域再生プロジェクト事業ですが、観光パンフレットを見たことがないので、パンフレットを頂きたい。

・NO.8の婚活事業ですが、過去8組がカップルとなっているようだが、参加者の職業や居住地など、差支えない範囲で教えていただきたい。

・NO.20の空き家活用事業ですが、補修して使える空き家、使えない空き家はどれくらいあるのか。また、最近空き家を改修し、「カミヤクモ321」をオープンしたという新聞記事があった。利用できる空き家を活用したのはいいことだと思う。他に空き家を活用している人がいるようでしたら教えていただきたい。

(町)

・パンフレットについては、今、配布いたしましたのでご覧ください。

・婚活の関係は手元にはっきりとした資料がありませんが、男性は産業関係の方が中心で、全て町内の方。他のことにつきましては、後程、佐藤委員の方へお伝えします。

・空き家の関係ですが、こちらにも手元に資料がないため、後程お伝えいたします。空き家を改修して利用しているという話ですが、元草津湯さんを改修して「センター」として開業しております。使えない空き家については危険性がありますが、個人の財産ということで、行政が主体的に解体するというのは難しい部分もごございますので、所有者や町内会等々と問題共有して対応していくしかないかと考えております。

(委 員)

・7ページの八雲不動産協会の構成団体と役職がわかれば教えていただきたい。

・9ページ小牧交流についてですが、児童の希望数が少なくなっているとなっているが、八雲側なのか小牧側なのか、状況を教えていただきたい。

・域学連携推進事業ですけれども、医師派遣も含めて協定を結んでいるのかを教えてください。

(町)

・小牧からは24名来ており、八雲側は公募するのですが、子どもたちの数も減ってきて12名で対応しているという状況です。今後どういう方向で交流すべきかを今後課内で考えていきたいという状況でございます。

(町)

・域学連携の中では医学の部分は行われておりません。

・不動産協会の構成団体ですが、6社ございまして代表がユーラップ不動産となっております。

(委 員)

・小牧交流は、長期になってマンネリ化傾向となっていると思うので、十分検討する必要があると思う。

・域学連携ですけれども、ご承知のとおり総合病院は医師不足で大変な事態である。北里大学にも切り込む可能性は無いのか。

(町)

・域学連携については、医学のことは入っておりませんが、交流している大学の中で北里大学に医学部があり、以前アプローチをしておりますが、医師の確保までにはなっていない状況であります。

(委員)

・RIPMOの詳細が知りたい。
・高校の就学の数が減っているが、町外に行っている人の割合を教えてください。

(町)

・RIPMO事業とは、人材の確保・育成が目的であり、一次産業の忙しい時期に人を派遣し、その後の雇用につながるよう育成をしていくということが事業の目的です。また、自立に向けてサブ事業というのが、「ら・ふも」で行っている販わい創出です。RIPMOのKPIにあるように、募集件数と自立については「0」となっており、主として進んでいくべきものが、まだ検証段階、検討中ということで、目に見えるような形になっていないが、着実に進んでいると思っている。

(町)

・高校生の数は、今年度81名が入学し、3間口を維持している。道教委の方からは、32年度をもって1間口減ということが示され、32、33年度に向けて渡島管内の中学生の卒業生数が250名程度減るということで、間口減やむなしという状況。年々入学者数は減ってきており、その要因の一つに私立高校への推薦での入学が年々増えている状況にある。かつては函館方面だけだったが、最近では札幌の方からも推薦の要請が入ってきている。

(委員)

・RIPMOについては、目に見えづらいということ自体が大きな問題ではないかと思う。
・高校の方は、八雲高校と北里大学との連携をやっていただければと思う。しかし大学は動きにくいところなので、大学側からお声がけするのは難しい。行政の方から高校をつうじて大学にオファーを出していただくとありがたい。
・北里の医学部についてコメントさせていただきますが、医学部の学生300~400名ほどが八雲町に来て実習している。八雲のパンフレットを届けていただければ、学生が持っていくと思いますので検討していただきたい。

(町)

・八雲高校ですが、なんとか活性化を図っていきたいということで、さまざまな支援策を進めてきている。例えば北里大学への推薦枠があるとか、そうなれば子供たちの活性化にいい条件になるのではと思う。そうした対応が可能になれば素晴らしいと思う。

(2) 当面する町の主要施策・事業について

資料3について住民生活課長より説明。

・質疑

(委員)

・この制度は全国や全道的にどのような状況なのか

(町)

・全国的、全道的という広い範囲では抑えていないが、どこの市町村も人口減対策の一つの方策として取り入れている。渡島管内の状況は、高校生まで無料化は、ほとんどの町が行っており、八雲町が少し出遅れているという状況である。中学校までの町が森町、知内、木古内、函館市それ以外は高校生まで無料化にしている。また、我々の町のように所得制限を撤廃している町は非常に少ない。

(委員)

・無料化に伴ってペナルティは無いのか。

・中学校を卒業して就職した場合には無料化にならないということだが、家庭の事情があつてのことなのでその部分を含めてやるべきではないか。

(町)

・ペナルティについては以前あつたが、現在はない。

・高校に行かない人生徒がいるか調べたが、過去3年間の卒業生の中では高校に進学していない方は5名いました。そのうち3名は就職しており、残りの2名は通信制の高校に通っている。通信制の高校は基本的に学校法による学校と同じ扱いになりますので、在学照明をお持ちになっていただければ無料化の対象となる。

(町)

・今答弁した通り大変少ない人数であります。働くということは給料をいただいて、事業者も保険に入っておりますので、区別をしたということであります。

(委員)

・高額所得を中卒でもらえるということではないと考えます。財政的に大きな負担にならないと考えますので、検討したほうがいいのではないかと。

(町)

・少し研究させていただきたい。

資料4-1、4-2について住民サービス課長より説明。

・質疑

(委員)

・11回の説明会や協議を行っているという報告がありましたが、どういう意見が出されたかお聞きしたい。

(町)

・平成23年から事務事業見直しということで町側から保護者や地域に統合してはということで投げかけておりました。両地域それぞれで運営しておりましたので、保育園の位置や、通園が大変など、様々な意見がありました。平成29年に小中学校が統合され園児の数も少なくなり、親の方から小学校が一つなるということは、保育園も一緒のほうがよいのではないかという意見も出始めてきました。また、建物も40年近く経過しておりますので、新しい保育園も欲しいという要望を受けまして、平成29年度から本格的な協議をしております。

資料5について農林課長より説明

・質疑なし

資料6について農林課参事より説明

・質疑

(委 員)

・町長が代表に入ることだが、法人に行政の長が入るというのは実態としてどうなのか。倒産した場合はどうなるのか、町長が3年後4年後に代わってしまうということも考えられるなかで、行政の長が入るというのはどうなのか。

(町)

・法人の代表に町長が就任するというのは他町でもよくある話である。町長の任期との関係性であれば、あて職という形になるので、次の町長が就任ということになる。当然会社なので、経営不振となるリスクはゼロではありませんが、そうならない様に万全の態勢で進めていきたいと思っています。

(委 員)

・どこの企業も努力した結果、倒産する場合もある。道南や全道規模で行政の長が法人の代表に入っているところを具体的に知りたい。

(町)

・資料を持ち合わせていませんので、後程説明させていただければと思います。

(委 員)

・研究調査がなされていないのではないかと。調査はしたのか。

(委 員)

・搾乳で440頭いると大体年間6億ぐらいの収入になる。搾るという設備と牛さえいれば、それぐらいの収入にはなるという計算はできる。上八雲の農家さんがもともと持っている牛とスキルで始めるので、事業としてのリスクは少ないと思うし、上八雲の発展にはすごく良いことだと考える。

(委員)

・上八雲の発展に貢献するという事は良いことだと思うが、行政が入っての立ち上げということに不安をもっている。

(町)

・本来であれば5軒の農家が経営していくということになるが、ただその人は自分の商売としてやっていくので、町が建物等々を支援しながら人材を育成していくと考えています。委員おっしゃっているとおり、リスクはあるだろう思っておりますが、かなり少ないリスクと思っております。

(3) 八雲町新庁舎等建設について

(町)

新庁舎建設については、昨年10月の2期目の選挙の中で公約として新庁舎の検討をしております。議会の方も新庁舎建設特別委員会も立ち上がって、私の考えも先日述べてきたところございまして、開発委員会の皆様にも町がどのようなことを想定しながら動いているかを説明していき、意見を頂きたいと思っております。

役場庁舎は平成元年に改修しておりますが58年経っており、議会がある方が30年来となっております。震度七の地震が来た場合、最初に崩れていくような建物でありますので、耐震化した建物で災害にあったときには対策本部になるということを想定しながら改築・移転をしていきたいと思っております。

昔、小学校は体育館側にあり、新しく建てる際に役場側に来ております。一期目就任してびっくりしたことは、雨降り、雪降りのときは車で児童を送ってくる。

また、学校で行事があったときや役場で議会があったときなどは、駐車場がなくなる。さらに、変な三差路で気を付けながら役場の方に入ってくるということを見ると、役場を解体して駐車場にした方がよいのかと思っております。そこで、役場庁舎の場所をどうするかと言うと、皆様も新聞等々でご存知かと思っております、国立八雲病院が2年後に移転するということを発表し、もうそろそろ札幌の新しい病院の方の入札が始まるころで、入札が決定すると時期がハッキリするということになっております。それと同時に、養護学校も閉校するということは決定しておりますので、私は国立病院跡地に役場をもっていっただいいのかなと思っております。

また、公民館も57年経っており、地震が来たら崩れるような建物であります。やはり役場は公民館や教育委員会、福祉の関係を含め1つになった方がこれからの人口減少に向かっては、その方がいいだろう、また、養護学校を利用して移転したほうがいいのではないかと考えております。

費用については、役場庁舎には補助等はありませんので、あと12年・総額3

9億円使える合併特例債を用いたい。合併特例債は、民間の金融機関からお金を借りて、そのあと国が何年かで補填するという制度でありますので、役場庁舎にはこれが財政的に一番いいだろうということで検討しております。今考えていることは、建てるというよりは養護学校を使って改修をしていくと思っております。

国立病院の方は新しい建物は少ないですけれども、2、5、6、7病棟がまだ新しい建物でございますので、教育委員会の資料館の展示や倉庫に使えるのかと考えておりますが、国立病院の使い方については検討していませんので、あくまでも養護学校を利用しながら、そこに教育委員会、役場、シルバープラザの福祉をもっていくことを考えております。

また、警察や保健所などの北海道の建物も古いので、道と打合せをしながら国立病院側に移ってもらうことも検討しております。現在の庁舎で、議会側の建物は築30年であるため、改修工事をして2階を議会の委員会室や職員の準備室、1階については学校に近いということで学童保育にしたらということを考えており、古い方は解体し駐車場等にと考えています。

公民館も解体して、梅村庭園をうまく利用しながら町民が集える場所にしていきたいと思っております。議会や町民の皆様と話し合いをしながら来年度くらいに構想をまとめ、次の年又はその次の年に実施設計ということで、これから3年から5年の間に計画をしていきたい。建築については解体や改修工事がほとんどでありますので、合併特例債が使える12年とは言わないが5、6年かけて完成させていきたいと考えています。

(委員)

・公民館の場所は利用するには便利な場所であるので、町民が利用しやすい形にしてほしい。また、活用できるものは活用してほしい。

(町)

・公民館の場所は町民が集えるような場所にしていきたい。国立病院跡地は熊石の方や落部方面の方は場所的にはやはりあそこが一番わかりやすい場所、また、大きな津波などの災害にも安全な場所ということもあるので、教育委員会の機能は国立病院跡地の方がよいかと考えている。

(委員)

・改修して作るというのはお金がかかるのではないか。総合病院もそうだが、残したものを活用すると使いづらくなるし、設計も複雑になる。解体して、新たに建てたほうがよいのではないか。

(町)

・費用については解体して新たに建てるとなると今の換算でいうと60億くらいかかるのではないかと想定している。さらに庁舎等々を解体していくと80億くらいを想定している。養護学校は30年以上もつのかなと思っているので、養護学校を使って30億程度でおさめたいと思っている。

(委 員)

・国立病院や養護学校の跡地を利用するというので、町長は八雲町のまちづくりをどのように考えているのか。国立病院や養護学校が移転した場合、土地や建物をどの程度で購入すると話し合っているのか。購入する金額が一切報告されていない。耐震化した建物にするというのは賛成だが、位置の問題はもう少し検討が必要。

(町)

・これから三十年後を目指すまちづくりを考えたときに、出雲通は効果も出てきて、落部方面から来る人たちはまっすぐ入ってこられる、また熊石方面の人は新幹線の駅を過ぎてまっすぐ来る。さらに、出雲通には図書館があり、隣には国の合同庁舎、そして我々が道にお願いしている道の庁舎等々も固まってくると、町民の皆様はわかりやすい場所になるのかなということを想定している。ただ、あくまでも決定したものでないので、これから構想を練りながら町民の皆様と話し合いしながら進めていきたい。

(委 員)

・30億ぐらいにおさめたいという考え方は、理解はできないわけではない。人の建物や土地に、いくらで売買するかの話し合いもついていない、報告もされていないなかで、進めるという自体おかしいのではないか。本町を中心とする八雲町のまちづくりをどうするのかという立場で、役場庁舎の新築を考えるべきでないか。

(町)

・国立機構さんからも使ってくださいという話も聞いておりますし、金額的なもの内々には打合せはしている。養護学校も道教委から使わないと聞いていますし、町が使うのであれば譲りたいと聞いています。国立機構さんと道教委との話し合いからすると、そんなに大きなお金ではないと想定しております。

(委 員)

・国立病院の跡地問題というのは、厚生省時代300床以下は統廃合すると示された。跡地に医療機関が移転するのであれば無償で譲渡するという法律があったが、すでに廃止されている。そういう点で特別な恩恵ということはないというなかでの移転問題であるので、なぜ金額の提示も出来ないなかで移転作業を進めようとしているのか、町民を無視しているやり方でないかと思う。

5. その他

(委 員)

・9月6日に震災があった。9月10日胃がん健診があったが、防災無線で周知をして延期となったと聞いた。防災無線は聞こえづらいので手紙などを出して延期を伝えるべきだった。防災無線については、改善する必要があると思う。

・震災が起きて町内ではどのような災害があったのか。

(町)

・今の防災無線は、大変聞きづらいと我々も認知しておりますし、議会や町民からもたくさん声をいただいている。当初の目的は3.11の津波が来た時に外にいる人たちにお知らせするということが第一目的でありましたが、熊石のように個別受信機が欲しいということもありますので、年度ははっきりとはしませんが早い時期に一軒一軒に情報を知らせられるような仕組みを考えているところであります。

(町)

・防災無線での胃がん健診の周知ですが、9月6日は八雲町の全てが停電したということで、周知する手段として防災無線で学校の休校や健診のお知らせをしました。防災無線は聞こえづらいということを以前からありましたので、防災無線で周知したから完全ではないということを担当課と打合せをしております。また、防災無線は津波浸水区域にしか設置しておりませんので、山側には周知させません。その辺も担当課と話したうえで対応するようということをお話しております。今後このようなことがないようにしていきたいと思っております。

・停電当日に大きなパニックということはありませんでしたが、アパートでトイレの水がポンプアップ式ということで、トイレが使えないということで、その代替措置を行ったり、農家については停電に備えて発電機を使ってという対応をいたしました。しかし、色々と細かいところで町として反省するところがあったと思っております。今後このようなことがないことを祈りますが、災害を想定しながら必要な備品等を整備していきたいと考えております。

(町)

・次回開催は3月の後半を予定しております。

6. 閉会